

# あさか埋文レポート

発行日：令和7年7月19日

発行：朝霞市教育委員会 文化財課

## 🐎 埋蔵文化財最新発掘調査情報 🐎

◆朝霞市では、現在70か所の遺跡が存在しています。

川や緑が多く都心にも近い朝霞市においては、宅地造成やマンション建設など大規模開発工事が多いため、記録保存のための発掘調査が数多く行われています。そのなかで、最新の調査成果をお伝えします。



みなみわり・しくぼいせき

### 南割・西久保遺跡第8地点

調査地：朝霞市東弁財二丁目地内

期間：令和6年8月29日～12月27日

調査面積：826.40㎡

◆今回の調査では、住居跡17軒・屋外炉（ファイヤーピット）31基・土坑27基（集石土坑4基含む）・ピットなどが確認され、遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器・貝などが出土しました。

住居跡は、出土した遺物などから縄文時代早期と考えられる住居跡が3軒、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡が大小あわせて14軒となります。第7地点でも縄文時代早期の住居跡が見つかっており、また隣接する第6地点からは弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡が多数見つかっていることから、当遺跡には縄文時代から古墳時代にかけて断続的に集落が広がっていたと考えられます。

弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡のうち1軒からは復元できた範囲で、甕・台付甕・埴・鉢・鉢・壺といった土器が固まって出土し、当時の生活の一端を垣間見ることができました。この時代の壺は、お墓に供えられるものであり、出土するものもお墓からが多く、住居跡内で見つかるのは珍しいことです。どのような意味があって住居跡内に置いておかれたのでしょうか。

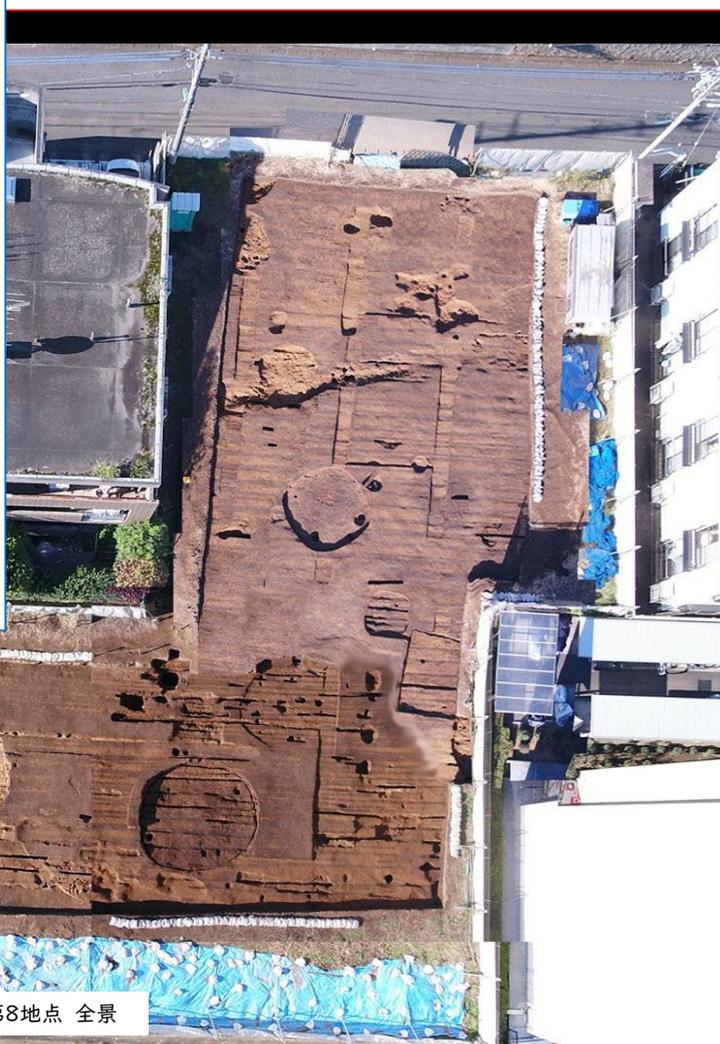
その他、縄文時代早期のファイヤーピットは最大で9基とまって見つかるなど、繰り返し使われた様相が伺えました。この規模は市内で初となります。

また、土坑から小規模ながらも珍しく貝層が見つかりました。私たちが住んでいる武蔵野台地の足元には関東ローム層と呼ばれる酸性土壌が広がっており、貝をはじめとした有機物は、長い年月が経てばたつほど溶けてなくなってしまいます。ただ、偶然にも好条件が重なることで、溶けずに残る場合があり、今回もそういった条件から発掘されるまで残っていたと考えられます。

なお、貝はシジミ類（おそらくヤマトシジミ）が95%を占め、カキ類（マガキか）少量ならびに二枚貝（オオノガイか）と微小貝（巻貝）がそれぞれ1個体ずつ確認されました。



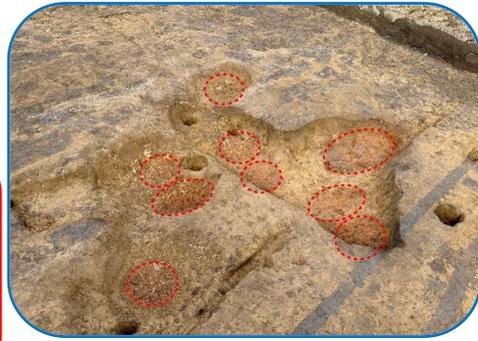
南割・西久保遺跡第8地点 位置図



南割・西久保遺跡第8地点 全景

ファイヤーピット群 (👉)  
赤点線が火烧面

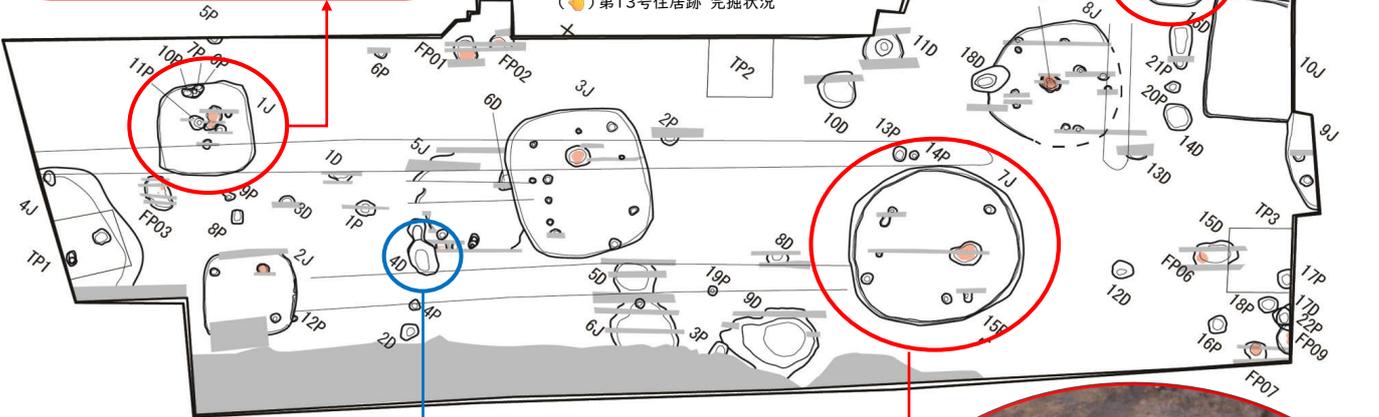
(👉) 第14号住居跡 完掘状況



(👉) 第1号住居跡 完掘状況



(👉) 第13号住居跡 完掘状況



(👉) 第4号土坑 貝層出土状況



(👉) ヤマトシジミと微小貝



(👉) マガキ



(👉) オオノガイ



遺物出土状況  
拡大 (👉)



(👉) 第7号住居跡 遺物出土状況



縄文時代の人たちが食べて捨てたのかな？